



1:12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。

1:13 私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかに、

1:14 兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

1:15 人々の中には、ねたみや争いからキリストを宣べ伝える者もありますが、善意からする者もあります。

1:16 ある人たちは、私が福音を弁証するため立てられていることを知り、愛をもってキリストを伝えていますが、

1:17 ほかに人たちは党派心からキリストを宣べ伝えており、純粋な動機からではありません。鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。

1:18 しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方キリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。そうです。これからも喜ぶでしょう。

1:19 というのは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでいとおりに、このことが結局は私の救いとなることを知っているからです。

1:20 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキ

リストがあがめられることです。

1:21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

投獄されるとは、辛く苦しいことに違いありませんが、パウロはそれも「福音の前進」になるなら、喜びであるようです。私たちもときには、自分が損や被害を被りながらも、主の栄光のために喜びを持つような信仰を表したいものだと思います。

「党派心をもって、キリストを宣べ伝える」人々は、おそらくパウロに対抗してのことですから妨害や批判をしたことでしょう。投獄されているパウロにとって、それは「さらに苦しみ」られることでした。しかし彼は宣教を「喜んでいきます。」と言っています。このような人になりたいものです。

せつかく主のわざが進もうとしているのに、自分のプライドや都合で、それを喜べないとしたら、そのような心は神の国ではみじめなものでしょう。パウロは「生きることはキリスト、死ぬことは益です」と言っていますが、これは特殊な悟りを開いた人の境地ではありません。主の愛によって生きるとき、主がそのような思いにしてくださいます。自分の修行ではありません。主の聖霊によります。

そのような人は恐れず、恨まず、争わず、むしろ愛し、協力し、赦し、受け入れて喜びと平和のうちに主の勝利をつかむことができるのです。そのような人になりたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

